

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

- | | |
|---|--|
| <p>①大内伸哉著『雇用改革の真実』日本経済新聞出版社(244頁,新書判)</p> <p>本書は、解雇、有期雇用、派遣労働、ホワイトカラー・エグゼンプション、ワーク・ライフ・バランス、女性の活用、高齢者雇用などについて、政府が進める雇用政策を分析。働く人々はそれをどう評価すべきなのか、今後の働き方にどのように影響するのか。目次には「解雇しやすくなれば働くチャンスが広がる」「有期雇用を規制しても正社員は増えない」「ホワイトカラー・エグゼンプションは悪法ではない」「育児休業の充実が女性にとって朗報か」など通説と異なる刺激的な見出しが並ぶ。「限定正社員」といった新語も積極的にすくい上げ、「企業は経済合理性に基づいて労働を利用する」を前提に、労働者が幸福に職業キャリアを全うできる方策を追究している。</p> | <p>③山本勲他著『労働時間の経済分析』日本経済新聞出版社(xviii+359頁,A5判)</p> <p>著者たちは、趣味や家族との時間の増大、介護による勤務時間の減少など、「正社員ならば長時間労働」という考え方は、長期に持続可能な経済成長は見込めないと強調。また、ワーク・ライフ・バランスへの企業の取り組み不足、メンタルヘルスと企業の売上高利益率、ホワイトカラー・エグゼンプションなど労働時間規制の有無と労働時間の長さを分析、インターバル規制や有休買い取り制度など導入可能な政策を提案。本書の目的は、政府統計やパネル調査の個票データ、独自のアンケート調査の個票データ等を可能な限り利用して、多様な角度から日本人の労働時間や働き方に関する事実や問題点など本質的な議論のための基礎的なエビデンスを提供することである。</p> |
| <p>②ケイトリン・リンチ著『高齢者が働くということ』ダイヤモンド社(XIII+416頁,四六判)</p> <p>本書は、医療用などの中空針を製造する米国東部の家族的経営の会社を、労働の世界を専門に研究している文化人類学者が5年にわたるインタビューや参与観察によってまとめたルポ。従業員の半分が74歳以上、最高年齢者は100歳近くという高齢者が、最低賃金に若干上乗せした賃金で、医療給付も退職給付もないのになぜ働くのか。答えは「自分がまだ生産的で役に立てると実感できる」「自分を必要としている人々に会える」こと。経営側による搾取の可能性を指摘する声には、従業員たちは、充実した人生を送っており、納得していると回答。従来の基準では引退してもおかしくない年齢の人たちが老いること、働くこと、生きがいについて現実を見ずえて考察している。</p> | <p>④山田陽一著『日中労働組合交流史』平原社(xviii+265頁,A5判)</p> <p>日中両国の労働組合の60年にわたる交流の軌跡をまとめたのが本書である。1952年に日本側密航者による北京メーデー参加が非公式な戦後日中労働交流の始まりであったことを皮切りに、「平和運動目標の共有期」(1959～1964年)、「中ソ対立・文革による労組交流中断期」(1965～1978年)までは「人民交流」の先頭に立ってすぐれた政治的性格をもつ交流だったと回顧。「最良の日中関係下の労組交流期」(1978～1989年)を経て、天安門事件で一時交流が中断するものの、その後は本来の労組間の交流として、日中間の多元的交流の一翼を担ってきたと強調。現在、日中関係は著しく悪化しているが、日中労組交流の性格を総括し、今後の交流の意義を展望している。</p> |

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2014年7～8月労働図書館受け入れ)

- | | |
|---|--|
| <p>⑤大西裕著『先進国・韓国の憂鬱』中央公論新社(vi+264頁,新書判)</p> <p>⑥三浦まり他編著『ジェンダー・クオータ』明石書店(273頁,A5判)</p> <p>⑦松山一紀著『日本人労働者の帰属意識』ミネルヴァ書房(ix+255頁,A5判)</p> <p>⑧大西謙編著『老舗企業にみる100年の知恵』見洋書房(viii+240頁,A5判)</p> <p>⑨江上範博著『次世代リーダー読本』日本生産性本部生産性労働情報センター(vii+143頁,A5判)</p> <p>⑩マイケル・A・ウェスト著『チームワークの心理学』東京大学出版会(x+394頁,A5判)</p> <p>⑪三富圭著『会社があなたを選ぶ理由の作り方』幻冬舎ルネッサンス(238頁,四六判)</p> <p>⑫榎一江他編著『労務管理の生成と終焉』日本経済評論社(iv+362頁,A5判)</p> <p>⑬ロア・ユナイテッド法律事務所編『メンタルヘルスの法律問題』青林書院(33+520頁,A5判)</p> <p>⑭金子勇著『「成熟社会」を解説する』ミネルヴァ書房(xviii+284+6頁,A5判)</p> <p>⑮本沢巳代子他編『トピック社会保障法』不磨書房(xx+278頁,A5判)</p> <p>⑯榎田秀樹著『自爆営業』ポプラ社(228頁,新書判)</p> <p>⑰清水直子著『ブラック企業を許さない!』かもがわ出版(134頁,A5判)</p> | <p>⑱道幸哲也他著『ワークルール検定:中級テキスト』旬報社(266頁,A5判)</p> <p>⑳山本寛著『働く人のためのエンプロイアビリティ』創成社(xvi+334頁,A5判)</p> <p>㉑筒井美紀他編著『就労支援を問直す』勁草書房(ix+224頁,A5判)</p> <p>㉒脇田滋他編『常態化する失業と労働・社会保障』日本評論社(xi+332頁,A5判)</p> <p>㉓里中高志著『精神障害者枠で働く』中央法規出版(206頁,A5判)</p> <p>㉔日本ドリームプロジェクト編『あたらしい働く理由をみつけよう』いろは出版(159頁,A5判)</p> <p>㉕水谷英夫著『職場のいじめ・パワハラと法対策』民事法研究会(22+339頁,A5判)</p> <p>㉖森田慎二郎著『日本産業社会の形成:福利厚生と社会法の先駆者たち』労務研究所(10+xii+284頁,A5判)</p> <p>㉗林伸二著『人と組織を変える自己効力』同文館出版(xii+178+17頁,四六判)</p> <p>㉘浅井隆他編著『最新裁判例にみる職場復帰・復職トラブル予防のポイント』新日本法規出版(406頁,A5判)</p> <p>㉙山岸敬和著『アメリカ医療制度の政治史』名古屋大学出版会(iv+317+52頁,A5判)</p> <p>㉚石田光男他編著『GMの経験:日本への教訓』中央経済社(iv+264頁,A5判)</p> <p>㉛于建嶸著『安源炭鉱実録』集広舎(544頁,A5判)</p> |
|---|--|

労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地:〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間:9:30～17:00

休館日:土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他

電話番号:03(5991)5032 / FAX:03(5991)5659

労働図書館 HP:<http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格:どなたでもご自由にご利用できます

貸出:和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス:図書資料の所在調査などのサービスを行っています

